

スポーツ鍼灸科 SK21A SK22A SK23A

分野	教育内容	必修	授 業 科 目	区分	単位 数	科目 時間	1年次		2年次		3年次	
		選択					前	後	前	後	前	後
基礎	科学的思考の 基盤 人間と生活	必修	スポーツ健康学Ⅰ(保健体育)	講義	4	60	30	30				
		必修	スポーツ健康学Ⅱ(生物学)	講義	4	60	30	30				
		必修	スポーツ健康学Ⅲ(栄養学)	講義	2	30	30					
		必修	スポーツ健康学Ⅳ(コミュニケーション)	講義	2	30		30				
		必修	スポーツ健康学Ⅴ(体力学)	講義	2	30		30				
専門基礎	人体の構造と 機能	必修	解剖学Ⅰ	講義	2	60	30	30				
		必修	解剖学Ⅱ	講義	2	60			30	30		
		必修	生理学Ⅰ	講義	2	60	30	30				
		必修	生理学Ⅱ	講義	2	60			30	30		
		必修	解剖生理学Ⅰ	講義	1	30	15	15				
		必修	解剖生理学Ⅱ	講義	1	30			15	15		
		必修	運動学	講義	2	30				30		
	疾病の成り立 ち、予防及び 回復の促進	必修	臨床医学総論	講義	4	60			30	30		
		必修	臨床医学各論Ⅰ	講義	2	60			30	30		
		必修	臨床医学各論Ⅱ	講義	2	60					30	30
		必修	病理学概論	講義	2	60			30	30		
	保健医療福祉とは 及びきゅうの理念	必修	リハビリテーション医学	講義	2	30			30			
		必修	衛生学・公衆衛生学	講義	1	30	30					
		必修	医療概論(職業倫理)	講義	1	15					15	
		必修	関係法規(社会保障制度)	講義	1	15					15	
専門	基礎はりきゅう 学	必修	基礎はりきゅう学Ⅰ(東洋医学概論Ⅰ)	講義	2	60	30	30				
		必修	基礎はりきゅう学Ⅱ(歴史)	講義	1	30	15	15				
		必修	基礎はりきゅう学Ⅲ(経絡経穴概論)	講義	2	60	30	30				
		必修	基礎はりきゅう学Ⅳ	講義	1	30	15	15				
		必修	基礎はりきゅう学Ⅴ(東洋医学概論Ⅱ)	講義	2	60			30	30		
		必修	基礎はりきゅう学Ⅵ	講義	1	30			15	15		
	臨床はりきゅう 学	必修	臨床はりきゅう学Ⅰ(東洋医学臨床論Ⅰ)	講義	2	60			30	30		
		必修	臨床はりきゅう学Ⅱ	講義	1	30			15	15		
		必修	臨床はりきゅう学Ⅲ(東洋医学臨床論Ⅱ)	講義	2	60					30	30
		必修	臨床はりきゅう学Ⅳ	講義	1	30					15	15
		必修	臨床はりきゅう学Ⅴ(東洋医学臨床論Ⅲ)	講義	2	60					30	30
		必修	臨床はりきゅう学Ⅵ	講義	1	30					15	15
		必修	臨床はりきゅう学Ⅶ(東洋医学臨床論Ⅳ)	講義	2	60					30	30
		必修	臨床はりきゅう学Ⅷ(はりきゅう理論)	講義	2	60					30	30
	社会はりきゅう学	必修	社会はりきゅう学	講義	2	30					30	
	実習	必修	はりきゅう実技Ⅰ	実技	2	60	30	30				
		必修	はりきゅう実技Ⅱ	実技	2	60	30	30				
		必修	はりきゅう実技Ⅲ(臨床実習前施術実技試験)	実技(集中)	2	60	30	30				
		必修	はりきゅう実技Ⅳ	実技	2	60			30	30		
		必修	はりきゅう実技Ⅴ	実技	2	60			30	30		
		必修	はりきゅう実技Ⅵ	実技	2	60			30	30		
必修		はりきゅう実技Ⅶ	実技	2	60					30	30	
必修		はりきゅう実技Ⅷ	実技	2	60					30	30	
臨床実習	必修	はりきゅう臨床実習Ⅰ	実技(集中)	1	45		45					
	必修	はりきゅう臨床実習Ⅱ	実技(集中)	1	45			45				
	必修	はりきゅう臨床実習Ⅲ	実技(集中)	1	45				45			
	必修	はりきゅう臨床実習Ⅳ	実技(集中)	1	45					45		
総合領域	必修	総合領域Ⅰ(生体観察)	講義	2	60	30	30					
	必修	総合領域Ⅱ(病態生理学)	講義	2	60			30	30			
	必修	総合領域Ⅲ	講義	2	60					30	30	
	必修	総合領域Ⅳ	講義	1	30					15	15	
	必修	総合領域Ⅴ	講義	2	60					30	30	
	必修	総合領域Ⅵ	講義	1	30					30		
	必修	総合領域Ⅶ	講義	1	30						30	
	必修	総合領域Ⅷ	講義	1	30						30	
	必修	総合領域Ⅸ	講義	2	75						75	
合計					99	2655	405	450	450	450	450	450

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床医学各論Ⅱ ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 3 年

1 授業の内容

諸疾患について、成因、病態生理、症状、検査、治療を学習する。

2 到達目標

諸疾患の成因、病態生理、主な症状、主な検査、治療法、予後について、キーワードをあげて説明できる。

3 授業の方法

教科書、配布プリント、パワーポイントによる講義

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%（後期試験の点数を最終評価とする）

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

復習時は、臨床医学各論の教科書だけではなく、解剖学・生理学・病理学・臨床医学総論の該当ページもよく読み、疾患の特徴を理解できるまで確認すること。

7 使用教材、教具

「臨床医学各論」医歯薬出版

「病気がみえるシリーズ」メディックメディア

「NHKきょうの健康」NHK出版

8 学生へのメッセージ

患者さんの施術をしていると、多くの病気の知識が必要であることを実感します。病気をすることは、いい鍼灸施術にもつながるとい担当教員の実体験も交えて、臨床に役に立ち、なおかつ国家試験にも対応できる知識を伝えたいと思います。

9 教員氏名（ 高橋 美如 ）

所 属（ ところ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

[科目表に戻る](#)

科目名 (臨床医学各論Ⅱ)

回数	授業内容
1	第11章 神経疾患 (1) 運動の異常
2	第11章 神経疾患 (2) 脳血管疾患
3	第11章 神経疾患 (3) 感染性疾患
4	第11章 神経疾患 (4) 脳・脊髄腫瘍
5	第11章 神経疾患 (5) 基底核変性疾患
6	第11章 神経疾患 (6) その他の変性疾患
7	第11章 神経疾患 (7) 認知症性疾患
8	第11章 神経疾患 (8) 筋疾患, 運動ニューロン疾患, 脱髄性疾患
9	第11章 神経疾患 (9) 末梢性神経疾患①
10	第11章 神経疾患 (10) 神経痛, 機能的疾患
11	第12章 リウマチ性疾患・膠原病 (1) リウマチ性疾患
12	第12章 リウマチ性疾患・膠原病 (2) 膠原病
13	第13章 その他の領域 (1) 小児の疾患
14	第13章 その他の領域 (2) 一般外科
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	第13章 その他の領域 (3) 麻酔科
18	第13章 その他の領域 (4) 婦人科疾患
19	第13章 その他の領域 (5) 皮膚科疾患
20	第13章 その他の領域 (6) 眼科疾患
21	第13章 その他の領域 (7) 耳鼻科疾患
22	第13章 その他の領域 (8) 精神科疾患
23	第13章 その他の領域 (9) 診療内科
24	第13章 その他の領域 (10) その他
25	第13章 その他の領域 (11) 過去問解説
26	疾患の総合的知識整理 (1)
27	疾患の総合的知識整理 (2)
28	疾患の総合的知識整理 (3)
29	疾患の総合的知識整理 (4)
30	疾患の総合的知識整理 (5)
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 医療概論（職業倫理） ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 3 年

1 授業の内容

医学と医療の歴史および現代の医療制度と倫理観を認識し、現代医療に関わる制度について学習する。患者さんの良き援助者としての医療人となれるよう、はり師・きゅう師として必要な歴史と倫理を理解する。

2 到達目標

現代日本の医療制度と課題点，医療従事者としての倫理を説明できる。

3 授業の方法

配布資料を中心に授業を行う。

4 成績評価方法・基準

前期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

各単元終了後に問題演習を行いますので，配布資料の復習をしてください。

7 使用教材，教具

「医療概論」医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

医療現場に関わる様々な制度・法律や倫理観は医療人として，必要な知識です。知識や技術だけではなく、患者さんに寄り添える人間性も育めるよう学習して下さい。

9 教員氏名（ 宮田 純 ）

所 属（ ところ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (医療概論 (職業倫理))

回数	授業内容
1	第1章 医学史
2	第2章 現代の医学と医療 現代医学の課題
3	第2章 現代の医学と医療 医療従事者と医療施設
4	第2章 現代の医学と医療 医療と医療経済
5	第2章 現代の医学と医療 医療保険のしくみ①
6	第2章 現代の医学と医療 医療保険のしくみ②
7	第2章 現代の医学と医療 介護保険制度
8	第3章 医療倫理 医療者の倫理
9	第3章 医療倫理 医療者 - 患者の倫理
10	第3章 医療倫理 医学 - 社会の倫理
11	第3章 施術者としての倫理
12	まとめ
13	演習問題 (1)
14	演習問題 (2)
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 関係法規（社会保障制度） ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 3 年

1 授業の内容

現代の医療制度を認識し、はり師・きゅう師に関わる法律知識について学習する。
はり師・きゅう師として必要な医療制度を理解し、医療人としての規範を逸脱することのないようにする。

2 到達目標

あんまマッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律を中心に、免許の資格要件や業務の範囲、違反した際の罰則などを説明できる。医療従事者として基本的な関係法規の種類と内容について理解する。

3 授業の方法

配布資料を中心に授業を行う。

4 成績評価方法・基準

前期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

各単元終了後に問題演習を行いますので、配布資料の復習をしてください。

7 使用教材，教具

「関係法規 第7版」医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

鍼灸師として業務を行う上で、あんまマッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律に関する知識は必須です。自身と患者さんを守るために、生きた知識を身につけましょう。

9 教員氏名（ 宮田 純 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 関係法規（社会保障制度） ）

回数	授業内容
1	序論 法とは何か
2	第1章 あはき法 免許①
3	第1章 あはき法 免許②
4	第1章 あはき法 名簿の登録
5	第1章 あはき法 業務の範囲
6	第1章 あはき法 施術所の開設
7	第1章 あはき法 広告の制限・名称の制限
8	第1章 あはき法 罰則
9	第2章 関係法規 医事・薬事法規
10	第2章 関係法規 衛生関係法規
11	第2章 関係法規 環境衛生関係法規
12	第2章 関係法規 社会福祉関係法規①
13	第2章 関係法規 社会福祉関係法規②
14	まとめ 演習問題
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床はりきゅう学Ⅲ（東洋医学臨床論Ⅱ） ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 3 年

1 授業の内容

症状，疾患を引き起こしている原因や機序について，東洋医学的に学ぶ。

2 到達目標

症状を東洋医学的な考え方に置き換えて，弁証論治を行えるようになる。

3 授業の方法

教科書・配布プリントで行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%（後期試験の点数を最終評価とする）

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書を使い過去問の解説を作成すること。

7 使用教材，教具

「新版 東洋医学概論」医道の日本社

「新版 東洋医学臨床論はりきゅう編」南江堂

8 学生へのメッセージ

これまで習ったことを復習しながら，知識を深めていきましょう。症状を東洋医学的に考えていくと，証を立てることができます。国家試験における症例問題の対策にもなりますので，そのつもりで授業に臨んでください。

9 教員氏名（ 山口 侃太 ）

所 属（ ところ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (臨床はりきゅう学Ⅲ (東洋医学臨床論Ⅱ))

回数	授業内容
1	第2章 疼痛 (1) 概説
2	第2章 疼痛 (2) 頭痛・顔面痛
3	第2章 疼痛 (3) 関節痛・頸肩腕痛
4	第2章 疼痛 (4) 上肢痛・肩関節痛
5	第2章 疼痛 (5) 腰下肢痛・腰痛
6	第2章 疼痛 (6) 下肢痛・膝痛
7	第2章 疼痛 (7) 胸痛
8	第2章 疼痛 (8) 腹痛
9	四択問題演習 (1) 疼痛 頭部・顔面部
10	四択問題演習 (2) 疼痛 上肢
11	四択問題演習 (3) 疼痛 下肢
12	四択問題演習 (4) 疼痛 胸部・腹部
13	四択問題演習 (5) 臓腑と関連する症候 肝・心・脾系統
14	四択問題演習 (6) 臓腑と関連する症候 肺・腎系統
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	第2章 その他の症候 (1) 顔面麻痺
18	第2章 その他の症候 (2) 歩行異常
19	第2章 その他の症候 (3) 口渇
20	第2章 その他の症候 (4) 出血傾向
21	第2章 小児特有の症候 (1) 概説・疳の虫
22	第2章 小児特有の症候 (2) 夜尿症・小児喘息
23	第2章 老年特有の症候 (1) 概説・認知症
24	第2章 疼痛 復習
25	第2章 臓腑と関連する症候 復習
26	第2章 全身の症候 復習
27	第2章 その他の症候 復習
28	第2章 女性特有の症候 復習
29	第2章 小児特有の症候 復習
30	第2章 老年特有の症候 復習
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床はりきゅう学Ⅳ ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 3 年

1 授業の内容

近年、男女共同参画社会が声高に謳われるようになり、女性のワーク・ライフスタイルは大きく変化し、それに伴う女性が抱える健康問題は増大・多様化している。当授業では東洋医学や鍼灸施術に期待される美容やマタニティ分野に的確に対応するために必要な知識を習得する。

2 到達目標

- ・頭顔面部の解剖生理学と美容医療の基本知識を習得する
- ・美容鍼の作用機序と、作用機序に基づく各技術の目的を理解する
- ・マタニティケアを行う上での婦人科・産科の基礎知識を習得する

3 授業の方法

PCプロジェクタを利用したプレゼンテーションソフトによる講義の他、講義内容に関連する課題に対するグループワークを実施する。

4 成績評価方法・基準

授業内評価60%、定期試験40%（後期試験の点数を最終評価とする）

5 評価の際の特記事項

授業態度は、質問への返答、グループワークの積極性等を総合的に評価する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業内容を復習することにより知識を定着させ、スキンケアや妊娠・出産・育児に携わる家族・知人へ具体的なアドバイスができるようになり、美容鍼灸師、マタニティケアラーとしての意識を高める。

7 使用教材、教具

授業内容に従ってプリントを配布。その都度、参考文献を紹介する。

『これから目指す人のための美容鍼灸ハンドブック』フレグランスジャーナル社

『病気がみえる vol.10 産科』【第4版】メディックメディア

『逆子の鍼灸治療』【第2版】医歯薬出版株式会社 など

8 学生へのメッセージ

妊娠・出産・育児を支えるマタニティ鍼灸、美容医療と美容鍼について正しい医学的知識を学び、プロフェッショナルとして自信を持って活躍しましょう。

9 教員氏名（ 小嶺由美 ）

所 属（ ところ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

[科目表に戻る](#)

科目名 (臨床はりきゅう学Ⅳ)

回数	授業内容
1	オリエンテーション、美容鍼灸概論
2	頭顔面部の解剖学
3	講義：体質別フェイシャルオイルトリートメント 脾タイプ
4	講義：体質別フェイシャルオイルトリートメント 肺タイプ
5	講義：体質別フェイシャルオイルトリートメント 腎タイプ
6	講義：体質別フェイシャルオイルトリートメント 肝タイプ
7	講義：体質別美容鍼灸 脾タイプ（1）
8	講義：体質別美容鍼灸 脾タイプ（2）
9	講義：体質別美容鍼灸 肺タイプ（1）
10	講義：体質別美容鍼灸 肺タイプ（2）
11	講義：体質別美容鍼灸 腎タイプ（1）
12	講義：体質別美容鍼灸 腎タイプ（2）
13	講義：体質別美容鍼灸 肝タイプ（1）
14	講義：体質別美容鍼灸 肝タイプ（2）
15	前期試験
16	前期試験のフィードバック
17	講義：婦人科・産科基礎医学概論
18	講義：妊娠初期の基礎知識①
19	講義：妊娠初期の基礎知識②
20	講義：妊娠初期の基礎知識③
21	講義：妊娠中期の基礎知識①
22	講義：妊娠中期の基礎知識②
23	講義：妊娠中期の基礎知識③
24	講義：妊娠末期の基礎知識①
25	講義：妊娠末期の基礎知識②
26	講義：妊娠末期の基礎知識③
27	講義：産褥期の基礎知識①
28	講義：産褥期の基礎知識②
29	講義：周産期のクライアント対応①
30	講義：周産期のクライアント対応②
31	後期試験
32	後期試験のフィードバック

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床はりきゅう学Ⅴ（東洋医学臨床論Ⅲ） ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 3 年

1 授業の内容

症状，疾患を引き起こしている原因や機序について，東洋医学的に学ぶ。

2 到達目標

・症状を東洋医学的な考え方に置き換えて，弁証論治を行えるようになる。

3 授業の方法

教科書・配布プリントで行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%（後期試験の点数を最終評価とする）

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書を使い過去問の解説を作成すること。

7 使用教材，教具

「新版 東洋医学概論」医道の日本社

「新版 東洋医学臨床論はりきゅう編」南江堂

8 学生へのメッセージ

これまで習ったことを復習しながら，知識を深めていきましょう。症状を東洋医学的に考えていくと，証を立てることができます。国家試験での症例問題の対策にもなりますので，そのつもりで授業に臨んでください。

9 教員氏名（ 山口 侃太 ）

所 属（ ところ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (臨床はりきゅう学Ⅴ (東洋医学臨床論Ⅲ))

回数	授業内容
1	第2章 臓腑と関連する症候 (1) 肝系統 眼精疲労
2	第2章 臓腑と関連する症候 (2) 肝系統 気分障害・めまい
3	第2章 臓腑と関連する症候 (3) 心系統 動悸・血圧異常
4	第2章 臓腑と関連する症候 (4) 心系統 睡眠異常
5	第2章 臓腑と関連する症候 (5) 脾系統 肥満・やせ
6	第2章 臓腑と関連する症候 (6) 脾系統 悪心・嘔吐
7	第2章 臓腑と関連する症候 (7) 脾系統 便秘・下痢
8	第2章 臓腑と関連する症候 (8) 脾系統 歯痛
9	第2章 臓腑と関連する症候 (9) 肺系統 咳嗽と喀痰
10	第2章 臓腑と関連する症候 (10) 肺系統 呼吸困難
11	第2章 臓腑と関連する症候 (11) 肺系統 鼻閉・鼻汁
12	第2章 臓腑と関連する症候 (12) 腎系統 脱毛症
13	第2章 臓腑と関連する症候 (13) 腎系統 耳鳴り・難聴
14	第2章 臓腑と関連する症候 (14) 腎系統 排尿障害・ED
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	第2章 全身の症候 (1) 疲労と倦怠感・発熱
18	第2章 全身の症候 (2) 冷え・のぼせ
19	第2章 全身の症候 (3) 浮腫・掻痒感, 肌荒れ, 発疹
20	第2章 女性特有の症候 (1) 概説・経早
21	第2章 女性特有の症候 (2) 経遅・経乱
22	第2章 女性特有の症候 (3) 痛経・経行情志異常・絶経前後諸症
23	第2章 女性特有の症候 (4) 性器出血・帯下
24	第2章 女性特有の症候 (5) 不妊症・つわり
25	第2章 女性特有の症候 (6) 骨盤位・乳汁分泌不全
26	四択問題演習 (1) 第31回はり師きゅう師国家試験
27	四択問題演習 (2) 第30回はり師きゅう師国家試験
28	四択問題演習 (3) 第29回はり師きゅう師国家試験
29	四択問題演習 (4) 第28回はり師きゅう師国家試験
30	四択問題演習 (5) 第27回はり師きゅう師国家試験
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床はりきゅう学VI ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 3 年

1 授業の内容

社会的ニーズと鍼灸師の役割を理解し、適切な施術や治療院経営ができるように学習する。

2 到達目標

社会から期待される鍼灸師の役割を理解し、将来の治療院経営をイメージする。

3 授業の方法

教科書，配布プリント，パワーポイントによる講義

4 成績評価方法・基準

レポート 100%（後期の点数を最終評価とする）

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書をもとに授業をすすめます。関連書籍，雑誌，ニュースやテレビ番組などでも情報を集め，将来の仕事のイメージをもてるようにしましょう。

7 使用教材，教具

「社会あはき学」医道の日本社，配付プリント

8 学生へのメッセージ

自分になりたい鍼灸師像をイメージするためには，鍼灸師が社会から何を期待されているかを知り，考えることが必要です。担当教員が臨床で経験し，感じたことも交えて，様々な場面で期待される鍼灸師像とそのために必要な知識を伝えます。

9 教員氏名（ 高橋 美如 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 臨床はりきゅう学VI ）

回数	授業内容
1	授業説明，日本における鍼灸の歴史と現況概観①
2	日本における鍼灸の歴史と現況概観②
3	現代の鍼灸における社会的背景と展望
4	現代社会における医療制度の現状（日本，海外におけるはき）
5	医療保険制度の概要
6	介護保険制度の概要
7	あはき治療と健康保険と療養費払い制度の概略
8	療養費，はりきゅう施術助成金について
9	介護保険施設業務と介護報酬
10	地域で期待されるあはき師の業務「在宅医療」
11	療養費，はりきゅう施術助成金
12	就職先の選び方
13	履歴書を書いてみよう（1）下書き
14	履歴書を書いてみよう（2）プロフィール，下書き仕上げ
15	履歴書を書いてみよう（3）清書，提出
16	面接の受け方，面接官になってみよう
17	施術所の経営展開（1）患者さんが来る鍼灸院（実習報告書を読んで再考）
18	施術所の経営展開（2）患者さんが来る鍼灸院（ワーク）
19	施術所の経営展開（3）開業をイメージしよう
20	施術所の経営展開（4）治療院名，事業の概要，開業の動機
21	施術所の経営展開（5）実績，事業内容
22	施術所の経営展開（6）市場規模，成長性，競合優位性
23	施術所の経営展開（7）信用保証協会，銀行
24	施術所の経営展開（8）営業活動
25	施術所の経営展開（9）集患者，見込顧客
26	施術所の経営展開（10）協力者，提携先，その他
27	施術所の経営展開（11）資金計画
28	施術所の経営展開（12）レポート完成，チェック，提出
29	施術所の経営展開（13）創業支援セミナー
30	施術所の経営展開（14）発表①
31	施術所の経営展開（15）発表②
32	施術所の経営展開（16）発表③

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床はりきゅう学Ⅶ（東洋医学臨床論） ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 3 年

1 授業の内容

2年次までに学習した経絡経穴概論・臨床医学各論・東洋医学臨床論の知識を総合的に整理し、国家試験の過去問題を解きながら、鍼灸師として必要な知識を深める。

2 到達目標

- ・筋・血管・神経など解剖学的な知識で経絡・経穴を選経・選穴できる。
- ・模擬患者によるロールプレイで、鑑別を行い、疾患を特定できる。
- ・上記に関連する国試過去問および類似問題を理解し、解答できる。

3 授業の方法

教科書、配布プリント、パワーポイントによる講義

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%（後期試験の点数を最終評価とする）

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

復習時は、臨床医学各論の教科書だけではなく、解剖学・生理学・病理学・臨床医学総論の該当ページもよく読み、疾患の特徴を理解できるまで確認すること。

7 使用教材、教具

「新版経絡経穴概論」医道の日本社、「東洋医学臨床論」南江堂
「臨床医学各論」医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

習得した知識を臨床活用するためのトレーニングを行います。担当教員の実体験も交えて、臨床に役に立ち、なおかつ国家試験にも対応できる知識を伝えたいと思います。

9 教員氏名（ 高橋 美如 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

[科目表に戻る](#)

科目名 (臨床はりきゅう学Ⅶ (東洋医学臨床論))

回数	授業内容
1	経絡経穴の総合的知識整理 (1) 基礎
2	経絡経穴の総合的知識整理 (2) 接続、流注
3	経絡経穴の総合的知識整理 (3) 骨度法
4	経絡経穴の総合的知識整理 (4) 始まりと終わり、要穴
5	経絡経穴の総合的知識整理 (5) 手の三陰三陽経、足の三陰三陽経
6	経絡経穴の総合的知識整理 (6) 胸腹部、腰背部① 表に記入
7	経絡経穴の総合的知識整理 (7) 胸腹部、腰背部② 図に記入 (腰背部)
8	経絡経穴の総合的知識整理 (8) 胸腹部、腰背部③ 図に記入 (胸腹部)
9	経絡経穴の総合的知識整理 (9) 横並び、顔、頭、頸
10	経絡経穴の総合的知識整理 (10) 筋
11	経絡経穴の総合的知識整理 (11) 神経
12	経絡経穴の総合的知識整理 (12) 血管
13	経絡経穴の総合的知識整理 (13) 奇経八脈
14	経絡経穴の総合的知識整理 (14) 現代的研究、奇穴
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	疾患の総合的知識整理 (1) 感染症
18	疾患の総合的知識整理 (2) 消化管疾患
19	疾患の総合的知識整理 (3) 肝胆膵疾患
20	疾患の総合的知識整理 (4) 呼吸器疾患
21	疾患の総合的知識整理 (5) 腎・尿器疾患
22	疾患の総合的知識整理 (6) 内分泌疾患
23	疾患の総合的知識整理 (7) 代謝栄養疾患
24	疾患の総合的知識整理 (8) 整形外科疾患
25	疾患の総合的知識整理 (9) 循環器疾患
26	疾患の総合的知識整理 (10) 血液・造血器疾患
27	疾患の総合的知識整理 (11) 神経疾患
28	疾患の総合的知識整理 (12) リウマチ性疾患・膠原病
29	疾患の総合的知識整理 (13) その他の領域
30	疾患の総合的知識整理 (14) まとめ
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床はりきゅう学Ⅷ（はりきゅう理論） ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 3 年

1 授業の内容

鍼灸の現代西洋医学的な治効機序について理解を深める。
後期については、国家試験に向けての対策を行う。

2 到達目標

鍼灸による治効機序を理解し、国家試験や臨床に応用できるようになる。

3 授業の方法

教科書，配布プリントによる講義

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%（後期試験の点数を最終評価とする）

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

鍼灸治効機序の理解に必要な解剖学や生理学の神経を復習すること。

7 使用教材，教具

「はりきゅう理論」医道の日本社

8 学生へのメッセージ

学術的な研究に基づいた鍼灸治効機序を理解することで、より再現性の高い施術につながります。神経をしっかりと復習したうえで、授業に臨みましょう。

9 教員氏名（ 樋口 裕次郎 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (臨床はりきゅう学Ⅷ (はりきゅう理論))

回数	授業内容
1	第1章 概論 第2章 鍼の基礎知識 第3章 刺鍼の方式と術式
2	第4章 特殊鍼法 第5章 灸の基礎知識 第6章 灸術の種類
3	第7章 リスク管理 (1) 安全対策の基本・感染対策
4	第7章 リスク管理 (2) 有害事象の種類と対処法
5	第8章 鍼灸治効を理解するために必要な基礎知識 (1) 生体の調節
6	第8章 鍼灸治効を理解するために必要な基礎知識 (2) 感覚
7	第8章 鍼灸治効を理解するために必要な基礎知識 (3) 熱傷・体表の反応
8	第9章 鍼灸治効機序 (1) 鍼鎮痛① 全身性鎮痛
9	第9章 鍼灸治効機序 (2) 鍼鎮痛② 脊髄分節性鎮痛・末梢性鎮痛
10	第9章 鍼灸治効機序 (3) 循環系と鍼灸
11	第9章 鍼灸治効機序 (4) 運動系・消化器系・泌尿器系と鍼
12	第9章 鍼灸治効機序 (5) リラクゼーション・生体防御系と鍼灸
13	第10章 鍼灸治効機序と臨床の接点 (1) 刺激部位・刺激入力
14	第10章 鍼灸治効機序と臨床の接点 (2) 鍼灸刺激による治功機序
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	リハビリの総合的知識整理 (1) 障害と医療
18	リハビリの総合的知識整理 (2) 障害の評価① 心身機能・身体構造
19	リハビリの総合的知識整理 (3) 障害の評価② 活動・参加
20	リハビリの総合的知識整理 (4) 医学的リハビリテーション
21	リハビリの総合的知識整理 (5) 脳卒中・脊髄損傷
22	リハビリの総合的知識整理 (6) 切断・脳性麻痺
23	リハビリの総合的知識整理 (7) 骨関節疾患・関節リウマチ
24	リハビリの総合的知識整理 (8) 末梢神経障害・パーキンソン病
25	リハビリの総合的知識整理 (9) 呼吸器疾患・心疾患
26	運動学の総合的知識整理 (1) 運動学の基礎
27	運動学の総合的知識整理 (2) 正常歩行と異常歩行
28	はりきゅう理論の総合的知識整理 (1) 鍼灸の基礎知識と術式
29	はりきゅう理論の総合的知識整理 (2) 鍼灸治効機序の基礎知識
30	はりきゅう理論の総合的知識整理 (3) 鍼灸治効機序
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 社会はりきゅう学 ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 3 年

1 授業の内容

社会的ニーズと鍼灸師の役割を理解する。
卒業後に従事する際、適切な評価や施術ができるように学習する。

2 到達目標

社会的ニーズと求められる鍼灸師の役割を
治療院で行う業務を理解し、実行することができる。

3 授業の方法

教科書，配布プリント，パワーポイントによる講義

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書をもとに授業をすすめます。

7 使用教材，教具

「社会あはき学」医道の日本社，配付プリント

8 学生へのメッセージ

自分になりたい鍼灸師像をイメージするためには，鍼灸師が社会から何を期待されているかを知り，考えることが必要です。担当教員が臨床で経験し，感じたことも交えて，様々な場面で期待される鍼灸師像とそのために必要な知識を伝えます。

9 教員氏名（ 伊藤 元太郎 ）

所 属（ ところ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (社会はりきゅう学)

回数	授業内容
1	施術所におけるはりきゅう治療 評価法
2	在宅医療でのはりきゅう治療 評価法
3	鍼灸師にできる機能訓練指導
4	高齢者に対する予防的はりきゅう治療 評価法
5	要介護高齢者に対するはりきゅう治療 評価法
6	鍼灸師による子どもの心身の健全な発達への援助 発達の理解
7	子どものスポーツ障害の予防と治療 評価法
8	鍼灸師による女性に特有な症状へのアプローチ① 評価
9	鍼灸師による女性に特有な症状へのアプローチ② 治療
10	ストレスが惹起する症状へのはりきゅう治療 評価
11	産業衛生におけるはりきゅう治療 評価
12	スポーツ傷害におけるはりきゅう治療 競技特性の理解
13	スポーツ傷害におけるはりきゅう治療 評価法
14	QOL 向上に求められるはりきゅう治療 評価法
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ はりきゅう実技Ⅶ ）

学科名 スポーツ鍼灸 科

学年 3 年

1 授業の内容

近年、ニーズが高まる美容鍼灸ならびにマタニティ鍼灸を安全かつ効果のある施術を行うための必要な技術を習得する。

2 到達目標

- ・クライアントに見合った美容鍼のリスク管理を行えるようになる。
- ・顔面部への刺鍼技術を的確に行えるようになる。
- ・妊娠・出産・育児を行うクライアントの健康・環境に見合った対応ができるようになる。
- ・妊娠・出産・育児に伴うマイナートラブルに対し、鍼灸施術の適・不適応の判断や、つわりや骨盤位など鍼灸施術にて効果の高い施術を安全に行えるようになる。

3 授業の方法

講師によるデモンストレーション後、学生同士ペアで実技実習を行う。

4 成績評価方法・基準

授業内評価 60%、実技試験 40%

5 評価の際の特記事項

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

技術の習得や上達は経験値の集積によるため、実技練習は授業内にとどまらず、授業内容の復習に勤しんで下さい。

7 使用教材、教具

授業内容に従ってプリントを配布。

8 学生へのメッセージ

これから鍼灸師として社会で活躍する皆さんは老若男女、職業に関係なく様々な方の人生に鍼灸施術を通して触れあう事となります。患者さんに気持ちよく安心して施術を受けていただくためのホスピタリティやコミュニケーションスキルなど、開業鍼灸師としての知恵を授業の中でお伝えします。

9 教員氏名（ 小嶺由美 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ はりきゅう実技Ⅶ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション、美容鍼灸概論
2	フェイシャルオイルトリートメント（タオルターバン・オイル塗布）
3	体質別フェイシャルオイルトリートメント 脾タイプ
4	体質別フェイシャルオイルトリートメント 肺タイプ
5	体質別フェイシャルオイルトリートメント 腎タイプ
6	体質別フェイシャルオイルトリートメント 肝タイプ
7	体質別美容鍼灸 脾タイプ（1）
8	体質別美容鍼灸 脾タイプ（2）
9	体質別美容鍼灸 肺タイプ（1）
10	体質別美容鍼灸 肺タイプ（2）
11	体質別美容鍼灸 腎タイプ（1）
12	体質別美容鍼灸 腎タイプ（2）
13	体質別美容鍼灸 肝タイプ（1）
14	体質別美容鍼灸 肝タイプ（2）
15	実技試験
16	実技試験のフィードバック
17	婦人科・産科基礎医学概論
18	妊娠初期の鍼灸治療①
19	妊娠初期の鍼灸治療②
20	妊娠初期の鍼灸治療③
21	妊娠中期の鍼灸治療①
22	妊娠中期の鍼灸治療②
23	妊娠中期の鍼灸治療③
24	妊娠末期の鍼灸治療①
25	妊娠末期の鍼灸治療②
26	妊娠末期の鍼灸治療③
27	産後の鍼灸治療①
28	産後の鍼灸治療②
29	グループワーク：周産期のクライアント対応①
30	グループワーク：周産期のクライアント対応②
31	実技試験
32	実技試験のフィードバック

シラバス（授業計画書）

科目名（ はりきゅう実技Ⅷ ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 3 年

1 授業の内容

- ・古代刺法や十七刺法，徒手検査について，実技で実践することで理解を深める。
- ・東洋医学の総合的な知識を整理し，国家試験や臨床に備える。

2 到達目標

- ・古代刺法や十七刺法の手技を習得する。
- ・徒手検査のやり方やその意義について説明できるようになる。

3 授業の方法

全体への説明後，教員によるデモンストレーションを見学し，学生ペアで実技を行う。
教科書，配布プリントで国家試験の対策を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%（後期試験の点数を最終評価とする）

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書を使い過去問の解説を作成すること。

7 使用教材，教具

「はりきゅう理論 第3版」医道の日本社

8 学生へのメッセージ

みなさんが身に着けた知識は，実技で実践することでさらに理解が深まります。鍼の操作が上手くできるように，練習しましょう。東洋医学をもう一度復習し，国家試験や臨床に役立ててください。

9 教員氏名（ 山口 侃太 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (はりきゅう実技Ⅷ)

回数	授業内容
1	古代刺法（1）九刺
2	古代刺法（2）十二刺
3	古代刺法（3）五刺
4	古代刺法（4）三刺
5	十七刺法（1）雀啄術～置鍼術
6	十七刺法（2）旋撚術～示指打法
7	十七刺法（3）随鍼術～刺鍼轉向法
8	徒手検査（1）頸部・胸部
9	徒手検査（2）肩部・上肢
10	徒手検査（3）腰部
11	徒手検査（4）骨盤周囲・下肢
12	機能訓練指導員について（1）介護業界での役割と仕事内容
13	機能訓練指導員について（2）機能訓練計画書
14	前期まとめ
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	東洋医学の総合的知識整理（1）八綱
18	東洋医学の総合的知識整理（2）気・血・津液
19	東洋医学の総合的知識整理（3）精・陰陽
20	東洋医学の総合的知識整理（4）肝胆
21	東洋医学の総合的知識整理（5）心小腸
22	東洋医学の総合的知識整理（6）脾胃
23	東洋医学の総合的知識整理（7）肺大腸
24	東洋医学の総合的知識整理（8）腎膀胱
25	東洋医学の総合的知識整理（9）経脈
26	東洋医学の総合的知識整理（10）絡脈
27	東洋医学の総合的知識整理（11）六淫
28	東洋医学の総合的知識整理（12）傷寒
29	東洋医学の総合的知識整理（13）温熱・湿熱
30	東洋医学の総合的知識整理（14）まとめ
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス (授業計画書)

科目名 (はりきゅう臨床実習Ⅳ)

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 3 年

1 授業の内容

基本的な患者対応や施術所における業務（診察準備，受付業務，患者誘導，施術，手技療法など）を体験し，一部を模倣・実践する。

2 到達目標

- ・態度・習慣 患者に対して適切な対応ができる。
- ・情報収集・記録 医療面接を実施し，SOAP形式で記録できる。
- ・施術へのアプローチ 施術計画を立案し，一部を実践できる。

3 授業の方法

施術所での患者対応を想定して体験型実習を行う。

4 成績評価方法・基準

実習中の継続評価，日誌，見学記録，実技試験をもとに総合的に評価する。

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

実習記録は1回終了するたびに記入すること。また，実習中にわからないことや疑問に思うことがあれば，質問するなど自ら調べ，記録すること。

7 使用教材，教具

「はりきゅう実技基礎編」医道の日本社

「マンガ 鍼灸臨床インシデント増補改訂版」医道の日本社

8 学生へのメッセージ

卒業後の施術所勤務または開業を念頭に置いて臨み，将来の鍼灸師像を描く糧にしましょう。

9 教員氏名 (高橋 美如)

所 属 (こころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科)

10 特記事項

実務経験のある臨床実習指導者による実務的教育の授業

[科目表に戻る](#)

科目名 (はりきゅう臨床実習Ⅳ)

回数	授業内容
1	施術所の運営および施術の体験・練習 (1)
2	施術所の運営および施術の体験・練習 (1)
3	施術所の運営および施術の体験・練習 (1) 4 5 分
4	施術所の運営および施術の体験・練習 (2)
5	施術所の運営および施術の体験・練習 (2)
6	施術所の運営および施術の体験・練習 (2) 4 5 分
7	施術所の運営および施術の体験・練習 (3)
8	施術所の運営および施術の体験・練習 (3)
9	施術所の運営および施術の体験・練習 (3) 4 5 分
10	施術所の運営および施術の体験・練習 (4)
11	施術所の運営および施術の体験・練習 (4)
12	施術所の運営および施術の体験・練習 (4) 4 5 分
13	施術所の運営および施術の体験・練習 (5)
14	施術所の運営および施術の体験・練習 (5)
15	施術所の運営および施術の体験・練習 (5) 4 5 分
16	施術所の運営および施術の体験・練習 (6)
17	施術所の運営および施術の体験・練習 (6)
18	施術所の運営および施術の体験・練習 (6) 4 5 分
19	施術所の運営および施術の体験・練習 (7)
20	施術所の運営および施術の体験・練習 (7)
21	施術所の運営および施術の体験・練習 (7) 4 5 分
22	施術所の運営および施術の体験・練習 (8)
23	施術所の運営および施術の体験・練習 (8)
24	施術所の運営および施術の体験・練習 (8) 4 5 分
25	施術所の運営および施術の体験・練習 (9)
26	施術所の運営および施術の体験・練習 (9)
27	施術所の運営および施術の体験・練習 (9) 4 5 分

シラバス（授業計画書）

科目名（ 総合領域Ⅲ ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 3 年

1 授業の内容

鍼灸師として必要な基礎医学（生理学・解剖学）領域の知識のおさらいを中心に総合的に学習する。

2 到達目標

国試過去問をベースに、毎回の小テストで満点をめざす。最終的に国家試験合格に十分な整理された知識の獲得をめざす。

3 授業の方法

国家試験の過去問を中心に、数多くの問題を解き、問題ごとに解説を加える。

4 成績評価方法・基準

毎回実施する小テストの平均で、期末時に70%を超えた者を合格とする。

5 評価の際の特記事項

授業を休むと0点となり、平均点を大幅に下げることになる。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

間違った解答はその場で修正し、正しい解答と背景をその日のうちに掴んで帰る。

7 使用教材，教具

「生理学」（改定第3版）医歯薬出版

「解剖学」（改定第2版）医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

3年生はいよいよ国家試験受験のための総仕上げをする学年です。

これまで学習した知識を総動員して、鍼灸師として必要な基礎医学的な現象をより深く総合的に理解するよう心がけましょう。

9 教員氏名（ 藤村 幸一 ）

所 属（ ところ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

通常教員による授業科目

科目名 (総合領域Ⅲ)

回数	授業内容
1	生理学領域の総合的知識整理 1 混合問題演習 40問
2	生理学領域の総合的知識整理 2 血液・免疫・心臓・循環・呼吸 (1)
3	生理学領域の総合的知識整理 3 血液・免疫・心臓・循環・呼吸 (2)
4	生理学領域の総合的知識整理 4 血液・免疫・心臓・循環・呼吸 (3)
5	生理学領域の総合的知識整理 5 消化吸収・栄養代謝・体温・尿排泄 (1)
6	生理学領域の総合的知識整理 6 消化吸収・栄養代謝・体温・尿排泄 (2)
7	生理学領域の総合的知識整理 7 消化吸収・栄養代謝・体温・尿排泄 (3)
8	生理学領域の総合的知識整理 8 内分泌・生殖・老化・神経基礎・中枢神経系 (1)
9	生理学領域の総合的知識整理 9 内分泌・生殖・老化・神経基礎・中枢神経系 (2)
10	生理学領域の総合的知識整理 10 内分泌・生殖・老化・神経基礎・中枢神経系 (3)
11	生理学領域の総合的知識整理 11 筋・運動調節・感覚 (1)
12	生理学領域の総合的知識整理 12 筋・運動調節・感覚 (2)
13	生理学領域の総合的知識整理 13 筋・運動調節・感覚 (3)
14	生理学領域の総合的知識整理 14 総合問題 50問 (1)
15	生理学領域の総合的知識整理 15 総合問題 50問 (2)
16	生理学領域の総合的知識整理 16 総合問題 50問 (3)
17	解剖学領域の総合的知識整理 1 総合問題演習 40問
18	解剖学領域の総合的知識整理 2 人体の構成・循環器・呼吸器・消化器A (1)
19	解剖学領域の総合的知識整理 3 人体の構成・循環器・呼吸器・消化器A (2)
20	解剖学領域の総合的知識整理 4 人体の構成・循環器・呼吸器・消化器A (3)
21	解剖学領域の総合的知識整理 5 消化器B・泌尿器・生殖器・神経系A (1)
22	解剖学領域の総合的知識整理 6 消化器B・泌尿器・生殖器・神経系A (2)
23	解剖学領域の総合的知識整理 7 消化器B・泌尿器・生殖器・神経系A (3)
24	解剖学領域の総合的知識整理 8 神経系B・感覚器・運動器総論 (1)
25	解剖学領域の総合的知識整理 9 神経系B・感覚器・運動器総論 (2)
26	解剖学領域の総合的知識整理 10 神経系B・感覚器・運動器総論 (3)
27	解剖学領域の総合的知識整理 11 上肢・下肢・頭頸部 (1)
28	解剖学領域の総合的知識整理 12 上肢・下肢・頭頸部 (2)
29	解剖学領域の総合的知識整理 13 上肢・下肢・頭頸部 (3)
30	解剖学領域の総合的知識整理 14 総合問題 50問 (1)
31	解剖学領域の総合的知識整理 15 総合問題 50問 (2)
32	解剖学領域の総合的知識整理 16 総合問題 50問 (3)

シラバス（授業計画書）

科目名（ 総合領域Ⅳ ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 3 年

1 授業の内容

- ・ 国家試験に出題される傾向が高い内容を中心に、解剖学を総合的に復習する。
- ・ 1年生、2年生で理解が不十分な分野を明らかにして、自身の学習ポイントを探す。

2 到達目標

- ・ 授業内で四択問題を解答し、問題について解説する。

3 授業の方法

- ・ 出題傾向の理解と、教科書や資料を熟読することを目的とする。
- ・ 分野の詳細や学習ポイントについて教員が、教科書や資料を使用して解説を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

解剖学Ⅰ・Ⅱで配布した資料，教科書を見直す。

7 使用教材，教具

東洋療法学校協会編「解剖学」（第2版）医歯薬出版株式会社

8 学生へのメッセージ

問題を繰り返し解答することで、要点を整理し、苦手な分野を克服しましょう。

9 教員氏名（ 伊藤 元太郎 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (総合領域Ⅳ)

回数	授業内容
1	解剖学演習問題1 解答および解説 1. 人体の構成 細胞, 組織
2	解剖学演習問題2 解答および解説 1. 人体の構成 受精と発生
3	解剖学演習問題3 解答および解説 1. 人体の構成 人体の区分と方向
4	解剖学演習問題4 解答および解説 2. 骨格系 脊柱, 胸郭
5	解剖学演習問題5 解答および解説 2. 骨格系 上肢の骨格
6	解剖学演習問題6 解答および解説 2. 骨格系 下肢の骨格
7	解剖学演習問題7 解答および解説 2. 骨格系 頭蓋骨
8	解剖学演習問題8 解答および解説 3. 筋系 体幹の筋, 頭頸部の筋
9	解剖学演習問題9 解答および解説 3. 筋系 上肢の筋
10	解剖学演習問題10 解答および解説 3. 筋系 下肢の筋
11	解剖学演習問題11 解答および解説 4. 循環器系 血管系, 心臓
12	解剖学演習問題12 解答および解説 4. 循環器系 動脈系
13	解剖学演習問題13 解答および解説 4. 循環器系 静脈系
14	解剖学演習問題14 解答および解説 4. 循環器系 胎児循環, リンパ系
15	前期試験
16	答案返却および解説
17	解剖学演習問題15 解答および解説 5. 呼吸器系 気道
18	解剖学演習問題16 解答および解説 5. 呼吸器系 肺
19	解剖学演習問題17 解答および解説 6. 消化器系 消化管
20	解剖学演習問題18 解答および解説 6. 消化器系 附属腺
21	解剖学演習問題19 解答および解説 7. 泌尿器系 腎臓, 尿路
22	解剖学演習問題20 解答および解説 8. 生殖器系 男性生殖器
23	解剖学演習問題21 解答および解説 8. 生殖器系 女性生殖器
24	解剖学演習問題22 解答および解説 9. 内分泌系 内分泌器官, ホルモン
25	解剖学演習問題23 解答および解説 10. 神経系 神経系の構成
26	解剖学演習問題24 解答および解説 10. 神経系 中枢神経
27	解剖学演習問題25 解答および解説 10. 神経系 末梢神経
28	解剖学演習問題26 解答および解説 11. 感覚器系 視覚・聴覚・平衡覚
29	解剖学演習問題27 解答および解説 11. 感覚器系 味覚・嗅覚
30	解剖学演習問題28 解答および解説 11. 感覚器系 皮膚
31	後期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 総合領域Ⅴ ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 3 年

1 授業の内容

これまで学んだ生理学や臨床医学総論の授業の内容から、よくみられる疾患や病態などを問題演習を通して学び、より深く知識と理解を得ることを目的とする。

2 到達目標

鍼灸の治効機序を理解し、症状や検査法から病態把握を行い治療へ繋げることができる。

3 授業の方法

教科書・配布資料を使用し授業を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）

教科書や授業で使用している資料等を予習・復習しておくこと。
授業後には必ず復習をして、知識の定着に努めてください。

7 使用教材，教具

「臨床医学総論」医歯薬出版

「生理学」医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

患者さんへの施術を行うと、多くの知識が必要であることを実感します。これまでの学習を復習しながら人体の構造を理解し、多方面から推測する力をつけ、疾患，治療の知識を付けましょう。

9 教員氏名（ 樋口 裕次郎 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 総合領域Ⅴ ）

回数	授業内容
1	総合演習 臨床医学総論 「診察の概要」 「診察の方法」
2	総合演習 臨床医学総論 「生命徴候の診察」
3	総合演習 臨床医学総論 「全身の診察」①
4	総合演習 臨床医学総論 「全身の診察」②
5	総合演習 臨床医学総論 「局所の診察」①
6	総合演習 臨床医学総論 「局所の診察」②
7	総合演習 臨床医学総論 「神経系の診察」①
8	総合演習 臨床医学総論 「神経系の診察」②
9	総合演習 臨床医学総論 「運動機能検査」①
10	総合演習 臨床医学総論 「運動機能検査」②
11	総合演習 臨床医学総論 「徒手検査法」
12	総合演習 臨床医学総論 「臨床検査法」
13	総合演習 臨床医学総論 「その他の診察」 「治療学」 「臨床心理」
14	総合演習 臨床医学総論 「おもな症状の診察法」
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	総合演習 生理学 「生理学の基礎」
18	総合演習 生理学 「循環」
19	総合演習 生理学 「呼吸」
20	総合演習 生理学 「消化と吸収」
21	総合演習 生理学 「代謝」
22	総合演習 生理学 「体温」
23	総合演習 生理学 「排泄」
24	総合演習 生理学 「内分泌」
25	総合演習 生理学 「生殖・成長・老化」
26	総合演習 生理学 「神経」
27	総合演習 生理学 「筋」
28	総合演習 生理学 「運動」
29	総合演習 生理学 「感覚」
30	総合演習 生理学 「生体防御機構」
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス (授業計画書)

科目名 (総合領域VI)

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 3 年

1 授業の内容

施術計画に活用し、診療録に記録することを目的に、これまで学んできた東洋医学的知識を総合的に整理する。

2 到達目標

- ・患者の情報や症状から病態を推測し、必要な東洋医学的検査を列挙し、適切に実施できる。
- ・患者の情報、症状、検査結果をもとに東洋医学的な施術計画を立案できる。

3 授業の方法

症例をもとに、グループディスカッションを行う。

4 成績評価方法・基準

レポート課題 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

東洋医学概論、東洋医学臨床論、経絡経穴概論の復習をして臨んでください。

7 使用教材、教具

「新版 東洋医学概論」医道の日本社

「新版 東洋医学臨床論はりきゅう編」医道の日本社

「新版 経絡経穴概論」医道の日本社

8 学生へのメッセージ

東洋医学の理解を深めて臨床に応用できるようになりましょう。病因病機を考えると応用力が身に付き、施術の幅が広がります。

9 教員氏名 (山口 侃太)

所 属 (ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科)

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

[科目表に戻る](#)

科目名（ 総合領域Ⅵ ）

回数	授業内容
1	病因病機について
2	病因病機（1）症例トレーニング
3	東洋医学暗記冊子 陰陽学説・五行学説 45分
4	病因病機（2）症例トレーニング
5	病因病機（3）症例発表
6	東洋医学暗記冊子 生植物質 45分
7	病因病機（4）症例トレーニング
8	病因病機（5）症例発表
9	東洋医学暗記冊子 蔵腑 45分
10	病因病機（6）症例トレーニング
11	病因病機（7）症例発表
12	東洋医学暗記冊子 六淫 45分
13	病因病機（8）症例トレーニング
14	病因病機（9）症例発表
15	東洋医学暗記冊子 古代九鍼・古代刺法 45分
16	病因病機（10）症例トレーニング
17	病因病機（11）症例発表
18	まとめ 45分

シラバス (授業計画書)

科目名 (総合領域VII)

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 3 年

1 授業の内容

鍼灸師として必要な分野である衛生学・公衆衛生学, 医療概論, 関係法規, 解剖学などの理解度を認識し, 不足している知識を補うことを目的とする。

2 到達目標

毎回出題する問題の各正答率が6割を超える。

3 授業の方法

国家試験問題, 模擬試験問題を中心に講義・解説を行います。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習 (予習・復習等)

教科書や授業で使用している資料等を予習・復習しておくこと。
授業後には, 必ず復習し知識の定着に努めてください。

7 使用教材, 教具

「衛生学・公衆衛生学」、「医療概論」、「関係法規」、「解剖学」、「経絡経穴概論」
「東洋医学臨床論」 医歯薬出版株式会社

8 学生へのメッセージ

・宮田 純

鍼灸師として臨床を行う際, 患者と施術者双方を守るために必要な, 実地的な知識を確認して卒業後に備えましょう。

・伊藤 元太郎

複数の科目の知識を織り交ぜて考えることができるように学習していきましょう。

9 教員氏名 (宮田 純, 伊藤 元太郎)

所 属 (宮田: ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科)

(伊藤: ころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科)

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 総合領域Ⅶ ）

回数	授業内容
1	公衆衛生学 1章「衛生学の意義」, 2章「健康」
2	解剖学・経絡経穴概論 体表指標
3	公衆衛生学 3章「ライフスタイルと健康」
4	解剖学・経絡経穴概論 督脈、任脈、脊柱の解剖
5	公衆衛生学 4章「環境と健康」
6	解剖学・経絡経穴概論 手の三陰経、上肢の解剖
7	公衆衛生学 5章「産業保健」
8	解剖学・経絡経穴概論 手の三陽経、上肢の解剖
9	公衆衛生学 6章「精神保健」
10	解剖学・経絡経穴概論 上肢の徒手検査と関連経穴
11	公衆衛生学 7章「母子保健」
12	解剖学・経絡経穴概論 足の三陰経、下肢～体幹の解剖
13	公衆衛生学 8章「学校保健」
14	解剖学・経絡経穴概論 足の三陽経、下肢～体幹の解剖
15	公衆衛生学 9章「成人・高齢者保健」
16	解剖学・経絡経穴概論 下肢の徒手検査と関連経穴
17	公衆衛生学 10章「感染症とその対策」
18	解剖学・経絡経穴概論 頭頸部、顔面部の経穴と解剖
19	公衆衛生学 11章「消毒法」
20	解剖学・経絡経穴概論 奇穴の解剖
21	公衆衛生学 12章「疫学」, 13章「統計」
22	解剖学・経絡経穴概論・東洋医学臨床論 腰下肢疾患
23	医療概論・関係法規 「現代の医療制度」
24	解剖学・経絡経穴概論・東洋医学臨床論 頸肩腕症候群
25	医療概論・関係法規 「患者の権利・施術者の倫理」
26	解剖学・経絡経穴概論・東洋医学臨床論 肩関節、膝関節疾患
27	医療概論・関係法規 「あはき法」
28	解剖学・経絡経穴概論・東洋医学臨床論 スポーツ障害
29	定期試験
30	定期試験
31	試験解説, 復習
32	試験解説, 復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 総合領域Ⅷ ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 3 年

1 授業の内容

2年生で学んだ病理学、臨床医学総論の知識を、演習問題を中心に復習し、生体の機能構造から疾患を理解し、必要な検査法を正確に行えるよう知識を深める。

2 到達目標

医療従事者として必要な病気についての基礎知識（疾病の種類・原因・形態・機序など）を学習し、人体と疾患の関係性について理解を深める。

3 授業の方法

教科書・配布資料を使用し授業を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

演習問題を課題とすることもあるので、次回授業時までには必ず自学しておくこと。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書・授業資料での予習・復習を行い、国家試験過去問等を解くこと。

7 使用教材，教具

「病理学概論」医歯薬出版

「臨床医学総論」医道の日本社

8 学生へのメッセージ

2年生で学んだ「病理学」、「臨床医学総論」の内容を、演習問題でよりフォーカスして授業していきます。特に理解が足りていない箇所は訂正ノートを作成して確実に身につけるようにして下さい。

9 教員氏名（ 宮田 純 ）

所 属（ ところ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (総合領域Ⅷ)

回数	授業内容
1	総合演習 病理学概論 2章 (疾病について)、3章 (病因)
2	総合演習 病理学概論 4章 (循環障害)、5章 (退行性病変)
3	総合演習 病理学概論 6章 (進行性病変)、7章 (炎症)
4	総合演習 病理学概論 8章 (腫瘍)、9章 (免疫異常・アレルギー)
5	総合演習 病理学概論 10章 (先天性異常)
6	総合演習 病理学概論 全範囲 (1)
7	総合演習 病理学概論 全範囲 (2)
8	総合演習 臨床医学総論 2章 (診察の方法)、3章 (生命兆候)
9	総合演習 臨床医学総論 4章 (全身の診察)、5章 (局所の診察)
10	総合演習 臨床医学総論 6章 (神経系の診察)
11	総合演習 臨床医学総論 7章 (運動機能検査)
12	総合演習 臨床医学総論 8章 (その他の診察)、9章 (臨床検査法)
13	総合演習 臨床医学総論 10章 (おもな症状の診察法)
14	総合演習 臨床医学総論 全範囲
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 総合領域IX ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 3 年

1 授業の内容

国家試験に向けた問題演習を行い、不足する学力を把握し、補うことを目的とする。

2 到達目標

問題演習を通じて苦手分野を早期に把握し、知識を補充し、国家試験に合格できる力を身につける。

3 授業の方法

- ・国家試験と同等の難易度である問題を180問解答する。
- ・問題演習の時間は国家試験と同様とする。
- ・問題演習後、解説レポートを作成し、面談を行う。

4 成績評価方法・基準

レポート 100%

5 評価の際の特記事項

解説レポートを作成し、期日厳守で提出すること。提出をもって評価を行う。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

事前に対象科目を復習し、準備して臨むこと。また、解説レポートは後日復習をする自分の資料として役に立つように作成すること。

7 使用教材，教具

東洋療法学校協会

8 学生へのメッセージ

伊藤・樋口

国家試験の本番を意識した問題演習は、自分の弱点探しです。自分の弱点を見つけ、一つずつ解決していきましょう。

9 教員氏名（ 伊藤 元太郎 / 樋口 裕次郎 ）

所 属（ 伊藤：こころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

（ 樋口：こころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

通常教員による授業科目

科目名 (総合領域IX)

回数	授業内容
1	第1回 学力向上演習① 問題演習
2	第1回 学力向上演習② 解答
3	第1回 学力向上演習③ 解説
4	第1回 学力向上演習④ 解説レポート作成
5	第2回 学力向上演習① 問題演習
6	第2回 学力向上演習② 解答
7	第2回 学力向上演習③ 解説
8	第2回 学力向上演習④ 解説レポート作成
9	第3回 学力向上演習① 問題演習
10	第3回 学力向上演習② 解答
11	第3回 学力向上演習③ 解説
12	第3回 学力向上演習④ 解説レポート作成
13	第4回 学力向上演習① 問題演習
14	第4回 学力向上演習② 解答
15	第4回 学力向上演習③ 解説
16	第4回 学力向上演習④ 解説レポート作成
17	第5回 学力向上演習① 問題演習
18	第5回 学力向上演習② 解答
19	第5回 学力向上演習③ 解説
20	第5回 学力向上演習④ 解説レポート作成
21	第6回 学力向上演習① 問題演習
22	第6回 学力向上演習② 解答
23	第6回 学力向上演習③ 解説
24	第6回 学力向上演習④ 解説レポート作成
25	第7回 学力向上演習① 問題演習
26	第7回 学力向上演習② 解答
27	第7回 学力向上演習③ 解説
28	第7回 学力向上演習④ 解説レポート作成
29	第8回 学力向上演習① 問題演習
30	第8回 学力向上演習② 解答
31	第8回 学力向上演習③ 解説レポート作成
32	第9回 学力向上演習① 問題演習
33	第9回 学力向上演習② 解答
34	第9回 学力向上演習③ 解説レポート作成
35	第10回 学力向上演習① 問題演習
36	第10回 学力向上演習② 解答
37	第10回 学力向上演習③ 解説レポート作成
38	第11回 学力向上演習① 問題演習
39	第11回 学力向上演習② 解説レポート作成

[科目表に戻る](#)